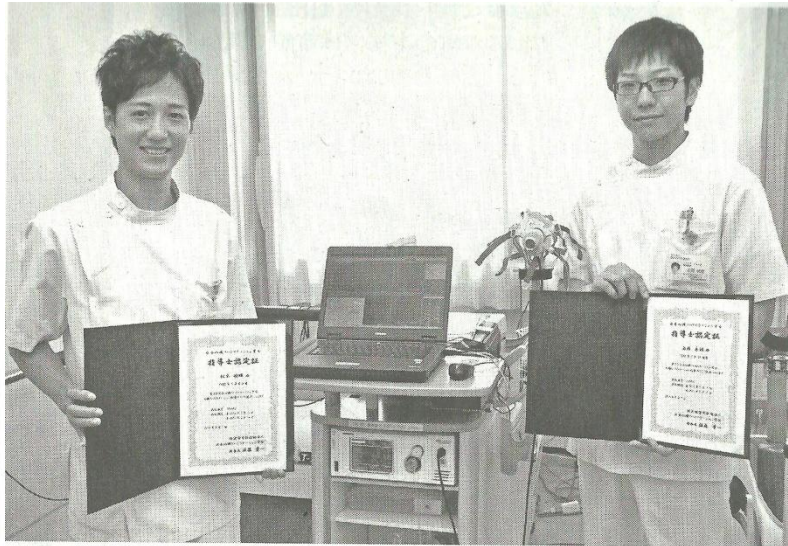


心臓リハビリ指導士取得

製鉄記念室蘭病院 (前田征洋病院長) の理学療法士、石岡卓朗さん (27) と松本将輝さん (28) が「心臓リハビリテーション指導士」の資格を取得した。心筋梗塞や狭心症など、心疾患治療後の心臓リハビリテーションは近年、再発を防いだ上で長く元気に過ごすための予防医療の観点からも注目を集めている。2人は「患者さんのために (資格に関わる) 知識を生かしていきたい」と意気込んでいる。(松岡秀宜)

外来患者「屋外ウォーキング」導入へ



「心臓リハビリテーション指導士」の資格を取得した (右から) 石岡さん、松本さん

急性心疾患は、カテーテル治療や血管内手術など治療技術の進歩で、早期離床・早期退院が可能となった。このため、単純な運動療法が中心となりがちだった心臓リハビリは、「単なる患者の機能回復だけでなく、安定期に入った患者の再発を防ぐため、多面的・包括的なプログラムで実施されている (同病院) 現状だ。

こうした状況の中、運動心臓病学や運動生理学に造詣が深い心臓リハビリ指導士が積極的に関わっていくことで、「安全にリハビリを進めながら、患者の治療と再発の予防、生活の質向上にも貢献できる」 (同) という。

同病院は西胆振管内の急性期基幹病院として、24時間体制で救急医療に対応している。中でも急性心疾患患者の大半は、同病院に搬送されている。受け入れ数増に比例して、心肺機能の改善・再発予防などを目的にした慢性期・安定期患者のリハビリ対応も多くなっているという。

このため、2人の資格取得を機に今後は、外来心臓リハビリ患者への

「屋外ウォーキング」なども導入。「モチベーション向上と新たな目標の発見、患者同士の交流による精神的な安定、自主運動意識の向上につながる」 (リハビリテーション部・太田徹技師長) ため、より効果的、効率的な心臓リハビリを進める考えた。

石岡さんは「よりよい心臓リハビリが提供できるよう、これからも頑張りたい」、松本さんは「患者さんに目的を持ってもらえるリハビリになるよう、サポートしたい」と決意を話す。

「心臓リハビリテーション指導士」日本リハビリテーション学会が認定する資格で、2000年 (平成12年) にスタート。医療、運動療法、栄養、薬の理解、禁煙指導、精神的な問題など、対応が多岐にわたるため、医師、看護師、理学療法士、管理栄養士、臨床心理士といった幅広い職種で取得が広がる。同学会ホームページによると、道内の資格取得者は109人 (今年1月現在) 。